

令和4年度中学校武道授業（弓道）指導法研究事業



研究事業の様子



研究授業発表

森本浩之研究者(上)・高橋潤子研究者(下)

令和4年度中学校武道授業（弓道）指導法研究事業（主催＝日本武道館・全日本弓道連盟・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁）が令和4年12月3日・4日の2日間、研究者5名、連盟事務局2名が出席し、日本武道館大会議室において実施した。

同事業は中学校保健体育科における武道授業の充実に向け、教育効果の上がる指導計画、指導内容、指導法、評価等について研究討議するもので、今回は、主に研究者2名による研究授業発表と第11回全国弓道指導者研修会の内容について検討・協議を行った。

■1日目（12月3日）

開講式では、和田健公益財団法人日本武道館振興課長と、高橋文彦公益財団法人全日本弓道連盟中央委員・総務部会員が挨拶を述べた。



主催者挨拶
高橋文彦
全日本弓道連盟
中央委員・総務部会員

開講式後、研究授業発表①では、森本浩之研究者が、勤務校の新田高等学校（愛媛県・松山市）における弓道部の紹介を行った。新入生にも早い段階で弓を引く楽しさを味わってもらうため、指導内容を時期ごとに分けた段階的な指導計画の紹介や弓具が届くまでの暫定的な対策として、溶接用の皮手袋を一部加工した自作の弓がけなどを紹介した。今後の要望として、弓道を経験したことのない教員が指導をするうえで、負担を軽減するためのシステムやマニュアル作りが必要ではないかと提案があった。

他の研究者からは、「生徒が弓道始める動機や目的は何か」「安全面について、どのような点に留意しているか」などの質問が寄せられた。

続いて、研究授業発表②では、高橋潤子研究者が、勤務校の静岡県立沼津聴覚特別支援学校の紹介を行った後、平成24年度から9年間にわたり静岡県立静岡聴覚特別支援学校において取り組んだ弓道授業を紹介した。

武道で何を学ばせたいのか、弓道で何を学ばせたいのかということを念頭に、安全面に配慮しながら、礼儀作法も含め、教育課程における体育指導の目的に沿った事例を紹介した。今後は、外部指導者に頼らなくても出来るような指導実践例の作成を要望する旨の発言があった。

■2日目（12月4日）

第11回全国弓道指導者研修会に向けて、参加者の選定や班分け、講師分担、時間配分や設営方法など、細部にわたり確認した。また、初心者と部活動指導者を共通で指導すべき内容と個別に指導すべき内容など、様々な観点から検討を重ねた。

さらに、参加者の質問を事前にICTを活用して集めてはどうか。グループディスカッションは、コンプライアンスに関するだけでなく、部活動や授業における課題、目指すべき方向性など、個別の議論も必要なのではないかといった意見が出され、それらを反映したカリキュラムを作成した。

閉講式では、研究者を代表して高橋文彦研究者が講評を、和田日本武道館振興課長が主催者挨拶を述べ、全日程を終了した。